

7月23日

テーマ：初めにことばがあった

聖書箇所：ヨハネの福音書1章1～5節

◆今日のみことば

初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

ヨハネの福音書1章1節

◆メッセージ

みんなは日記を書いたり、感想文を書いたり、手紙を書いたりすることがありますか？その時、最初に何と言って始めようかな、と悩むことがありますか。きっと聖書を書いた人たちもそうだったのではないかと、思います。新約聖書には、イエスさまが地上で生きておられた時のことについて書いた人が4人います。彼らはどんなことばで書き始めたのでしょうか。

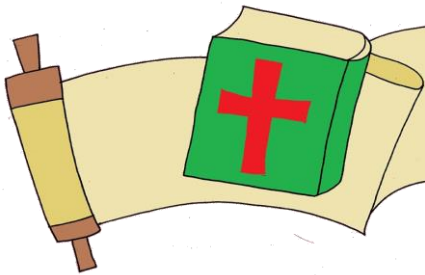


マタイさんは、イエスさまの系図から始めることにしました。マルコさんは、旧約聖書の預言のことばから始めることにしました。それは読む人たちに、イエスさまが旧約聖書で約束されていた救い主であることを知ってもらうためでした。ルカさんはイエスさまに直接お会いしたことがありません。だからイエスさまに直接会った人たちからちゃんと話を聴いて書きました、という説明から始めました。これから書く内容に間違いはない、と読む人たちに伝えたかったのでしょうか。このようにこの3人の書き始めはとてもわかり

やすいのですが、ヨハネさんが書いたヨハネの福音書だけは、不思議な書き出しとなっています。

ヨハネさんはイエスさまを「ことば」に例えました。おもしろいですね。なぜ「ことば」だったのでしょうか？それまでヨハネさんにとって神を知る方法は、「ことば」（聖書）によってでした。

ところがその聖書の「ことば」が「人」となって自分の目の前に現れたのです。聖書から神さまが飛び出して来た。そんな感じだったのかもしれませんが。「聖書のことば」は神さまからの愛のメッセージ。「聖書のことば」は生きていて力がある。「聖書のことば」はすべての人の希望の光。その「ことば」が人となって現れたのです。イエス・キリストと聖書のことばは同じなのです。ですから信じる価値があるのです。



◆お祈り

きょうもイエスさまに信頼して、イエスさまの教えにしたがって生活することができま
すように。
(石神井福音教会牧師 畑中洋人)